

都道府県別賞一等

セーフティーネット

京都府 福知山市立成和中学校 二学年

岡崎 未玖

ガシャーン、キキー！大きな音が鳴った。衝撃があった方を向くと白い車があった。私は学校からの帰り道、事故に遭った。

私は雨が降った日の下校途中に車と衝突事故に遭った。幸い大きなケガはなかったが、何回も病院に通う必要があった。決して安い額ではなく、自転車など別の出費もあったため費用がかさんでしまった。しかし、これらは生命保険で支払うことができた。なぜだろう。この疑問を感じた理由は生命保険は死亡した場合や入院が必要なほど重いケガだけが対象だと思っていたからだ。私は元々保険に縁がなく、旅行のときなどでしか見たことがなかった。そんなときも生命保険がどういった仕組みでお金を支払われてどんな種類があるのかよく分からなかった。なのでこの機会に生命保険について調べることにした。

まず保険は毎月決められた保険料を保険会社に支払い、保険料を支払っている人にもしものことがあったら決められた保険金を受取人に支払うというのが基本の仕組みで、「二人は万人のために、万人は一人のために」が基本精神だ。また、生命保険では死亡・病気の場合に保険金が支払われる「死亡保険」だけではなく、契約時に決めた年齢に達すると保険金が支払われ学費にあてることのできる「こども保険」や保険期間を決めて自分が生きていても亡くなっても保険金を受け取れて老後の資金や葬式代にあてられる「養老保険」などがある。また「ガン保険」などの特定のケガや病気に特化したものもある。

私はこういった保険の種類を保険会社のホームページではじめて知った。そこで感じたことは生命保険は病気だけでなく、介護や進学など生きていけば必ず経験し、かつ莫大な費用がかかるものに比べ、払込方法や期間、保険料などが様々なので自由度が高いということだ。今回調べただけでもとても覚えきれないほど種類があった。「もしも」は残念ながら誰にでも起こる。私はぼんやりと『事故に遭うのは大人になってからだろうなあ』と思っていたが実際に遭ったのは学校の帰り道だった。「もしも」がいつ起こるかを予知することはとても難しい。しかし、予測することはできる。そのときに保険金を受け取れる範囲なのか、受け取れるケースなのかを知っておくことは想像以上に重要だ。そして保険は保険でも一つの保険にずっと入っておけば良いというわけではない。種類が豊富ということはどこかで不必要な保険が出てくる。保険は生活と密接に関わりあっているので、「昔これに入ったから大丈夫」と安易に考えら

第60回中学生作文コンクール

れない。保険を頼るのはいいが、保険を過信してはいけない。定期的な見直しが必要だ。

自分の年齢や状況によって適切な保険が変わる。そこで重要なことは保険のことをしっかり調べることだと思う。同じ名前の保険でも受け取れる保険金額や受け取れる期間が違うことがある。保険は自分が経済的に困った状況になったとき自分を助けてくれるものだ。普段は意識しなくても安心して生活するうえで必要となってくるものだから、自分がどんな生命保険に入っているか一度調べてみたい。